

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

学校教育目標

「より良いものを求めて創り出す生徒の育成」

・意思の強い生徒 ・心身の健全な生徒 ・知性と感性の豊かな生徒

教育方針

(スローガン)「すべての子どもたちが安全で、安心できる学びの場所としての学校に」

1. 生徒の「佳さ」を育む
2. 主体性と協働を重んじた創造的な学び
3. 心理的安全性と信頼関係を重視した学校づくり
4. チーム明園と職場環境の向上

今年度の学校経営の重点

1. 豊かな人間性の育成
2. 確かな学力のはぐくみ
3. 健やかな心身の育成
4. 特別な配慮を要する子どもへの教育
5. 信頼される学校づくり
6. 「働き方改革」の意識化

◎札幌市学校教育の『基盤』＝「人間尊重の教育」

○本校教育活動推進の合言葉

・・・あいきょう [合い・共]

◇子ども向け～四つの『合い』

【学び合い・認め合い・高め合い・支え合い】

◇教職員向け～五つの『共』

【共感・共通・共働・共有・共育】

自己評価及び学校関係者評価

ア. 自己評価

(別紙、左側)

・上記、今年度の重点1～6に沿って、今年度の取組と成果、及び次年度に向けての改善の方策についてまとめています。

- ①【達成状況】 A：十分である B：概ね十分である C：不十分である …のABC評価
- ②【成果と改善の方策】今年度の具体的な取組や成果、また、残された課題に対する次年度の取組への改善の方策について既述

イ. 学校関係者評価

学校関係者評価委員会 3月5日(木) 14:00～校長室で実施

(別紙、右側)

・本校の学校評議員(2名)および評価委員(2名:前PTA会長・現PTA会長)4名による2つの観点による評価をお願いします。

【観点】

①【自己評価の適切さ】

自己評価の「達成状況(ABC評価)」と、その具体を記載した「成果」について、

A：適切に評価されている B：一部適切ではない C：適切な評価とは言えない

②【改善策の適切さ】

達成されなかった課題に対する「改善の方策」の記述について

A：方策が適切である B：一部不十分である C：改善の方策が不十分である

【学校関係者評価委員による意見】

・上記の「学校関係者評価(ABC)」の理由や取組へのご感想やご意見、期待することなどを自由に記述してください。次年度の取組の際の参考とさせていただきます。

自己評価及び学校関係者評価

分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
知・徳・体の調和のとれた育み	確かな学ぶ力の育成	A	学習環境、わかりやすい授業等、全般的に高評価である。計画性をもった主体的・自主的な学習習慣の確立や定着に課題が残る。➤授業だけで終わらないよう、計画的・自主的な学習習慣の確立や定着へとつなげていきたい。さらに協働学習による「学び合い」の機会を創出し、多様な考えに触れさせ、理解の深化を図りたい。	A	A	
		A	「見通し」や「振り返り」をもたせた授業や学習支援の継続により生徒自らが伸びを実感している。➤次年度も継続。	A	A	
		B	以前より継続して TT 授業や学びのサポーターを活用した取組を行っているが、生徒の困り感の多様化やマンパワー不足が課題。➤個別最適な学習に向け、効果的な ICT 活用、支援人材や教育相談の充実に努める。	A	A	
	豊かな人間性の育成	A	自己有用感等の自己承認の感度が高まっていると肯定的に捉えている生徒の割合が増加した。同様に道徳の授業で主体的・対話的に取り組んでいると答えた生徒の割合が上昇した。➤次年度も生徒一人一人が「大切にされている」と実感できる人間尊重の教育をパートナー校と共に推進していく。	A	A	
		B	今年度も引き続き、「きめ細やかな指導」を基本に、アプリも用いたいじめの未然防止や早期発見を重視する指導、校内特別委員会等の定期開催、命を大切にす啓発活動や講演会の開催等、様々な面から子どもたちを支援した。➤本校においてもいじめやネットトラブルは発生しており、取り返しのつかないこととならないよう、適宜問題に触れモラルや規範意識の醸成を図っていく。	A	A	
		A	生徒会活動を充実させ、概ね目標を達成する活動を実施することができた。ボランティア活動としての地域清掃・除雪を生徒会が中心となり実施した。➤次年度も生徒が主体となり、本物の体験ができるよう、充実した活動を継続していきたい。特にさっぽろっ子サミットに向けた活動や小中連携ボランティアの充実を図ってきたい。	A	A	
	健やかな体	自ら進んで運動に親しみ、楽しいと感じる運動の機会の提供	A	体育委員会による運動企画や体育祭の実施、体育の授業では男女共修で取り組める競技の実施等、活動の工夫や運動機会の提供ができた。➤次年度も継続。	A	A

	発達段階に合わせた保健指導・栄養指導の充実	A	生命の大切さや薬物乱用防止、デートDV防止等の専門家の講演、保健体育や家庭科の授業等で、学年に応じた指導や充実した取組を実施できた。➤次年度も継続➤次年度も継続。	A	A
	食の指導からアレルギー対応まで、健やかな体を育む指導の充実	A	家庭との詳細な確認や小学校との確実な引継ぎによるアレルギー対応により安全を確保できている。また、「健やかな体」育成プログラムに基づく各種の取組も充実させることができた。➤次年度も小中間や家庭との連携を密にして安全第一に対応にあたる。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・学力向上だけでなく、人としての成長や心身の健やかさを大切にしている点は、本校の大きな強みである。特に日常の学校生活の中で「人を尊重する姿勢」や「安心して過ごせる環境づくり」に力を注いでいることは、保護者として心強い点である。				
分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
個に応じた支援の充実	生徒一人一人に合わせた合理的配慮の検討と的確な支援	B	特別な配慮を要する生徒に関する校内研修を複数回もち、専門的な知見と技量を生かせるように取り組んだ。「学びの支援委員会」での情報共有とサポートファイルを活用した支援の方向性の確認を要とし、ハートピアの活用やSC、SSW、教育支援センターを含む外部機関と連携し、年間を通して細やかな支援の模索を継続できた。また、相談支援パートナー、学びのサポーターの運用により、ニーズに沿った効果的な支援もできた。➤丁寧で的確な支援を継続すると共に、特別支援教育やユニバーサルデザインの視点を生かした教育活動を取り入れる等、多様性への対応や困り感の解消につなげたい。	A	A
	キャリアパスポートも活用した小中高の連携による切れ目のない支援	A	学びや成長を記録した「キャリアパスポート」の活用や異校種間（小中、中高）での丁寧な引継ぎにより、学習面・生活面共に、よりの確かな生徒の個別支援を継続することができた。➤次年度も継続。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・生徒の多様な個性や背景を理解しようとする姿勢が随所にみられる。今後においては更に、「困ってから支援する」だけでなく、「困る前に気付き、寄り添う」体制づくりが進めば、より安心できる環境になると考える。</p> <p>・学校全体で見守る風土が育っていることは、皆様にとって安心できる材料である。</p>				
分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される学校づくり	安全・安心な学びの場所としての学校、学年、学級づくり	A	防災教育の充実（年2回のような状況を想定した実践的な避難訓練等）、危機管理マニュアルの見直しや施設設備の点検修理等を実施。万が一に備えながら命を大切にする教育を推進し、落ち着いた学びの環境を維持できた。他にも避難所運営研修や5町内合同避難訓練に参加し、地域の安全に寄与した。職員においては、適宜服務規律の確保等に向けて全員で確認を徹底し	A	A

			た。また、定期健康診断結果やストレスチェックを活用し、健康を意識した働き方に努めた。➤今年度は緊急地震速報に全校でしっかり対応できた。常日頃から油断することなく、心掛けていく。次年度も生徒・保護者と共に、心理的安全性の高い学校・学年・学級づくりを推進し、誰一人取り残すことなく「大切にされている」と実感できるよう教育実践を推進していく。学年や分掌における職員の関係性は高いので、業務横断的な連携・協力の関係を一層深めてウェルビーイングな職場にしたい。		
	学校・生徒・保護者・地域・関係機関5者をつなぐ社会に開かれた教育の推進	B	ホームページや「すぐー」、各種お便りでの情報発信、授業公開やPTA集会、小中連携（小中学校教諭による授業見学や小学校6年生が中学訪問による学校説明会や授業見学、小学校6年生を合唱コンクールへ招待）、除雪ボランティアの継続、地域による防災訓練など、実施することができた。➤令和8年度からコミュニティ・スクール導入する。パートナー校である明園小との「小中一貫した教育グラウンドデザイン」を軸に学校教育を充実させ、地域や社会に信頼される学校づくりに努める。校内においては研修や対話を通じて学校経営の課題を共有し、意思決定への参画機会を増やし、主体性と当事者意識を醸成していく。また、外部研修参加者に実践報告や共有の場を設けるなど、還元する機会の創出も検討したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信や説明責任への姿勢は年々丁寧さを増している。開かれた学校運営を目指す姿勢は評価できる。日々の積み重ねによって生まれる信頼と共に、わかりやすい情報共有、保護者との対話の機会、地域との協働が継続し、より温かく支え合う関係が深まるように願う。 ・コロナ禍を境に地域と学校の関わりが減っている。以前と同じではなくても、適宜地域の方々との交流を図るなど機会をもってほしい。 				
分野	学校評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	成果と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
働き方改革 視点からの より質の高い教育を目指し、生徒主体の	生徒主体の視点からの働き方改革	C	生徒の見守りと育成のための時間をより多く確保するために、働き方改革への様々な工夫（ICT活用、印刷物精選、教育課程の見直し等々）を継続。超勤時間削減等の成果をあげる一方で、効率化や縮減に馴染まない業務もあることから、超過勤務の実態も少なからず残っている。➤過労による重大なミスの無いよう、業務の平準化を図り、職員にとってウェルビーイングな職場環境を目指す。業務においては、ICT活用のアイデアや方法を共有し、職員同士で研修を深め、従来の業務の更なる効率化を図ると共に、業務へのAIの導入・活用を促進し、業務改善の初期アイデアを練ったり、情報の分析などにも生かしていきたい。	A	A

学校関係者 評価委員に よる意見	・働き方改革は、教職員の負担軽減だけが目的ではないが、教職員が心身共にゆとりを持つことは、結果として生徒への丁寧な関りに繋がる。日々の多忙と多忙感の中では「何か減らせるものはないか」と考えがちである。しかしながら、同時に考えなければならないのは、「その取組や活動には、どんな意味があるのか」「その変更を加えることで子どもたちの学校生活にはどんな影響があるのか」という視点も大切である。
------------------------	--

※最終の学校関係者評価は、評価委員4名全員がA評価=A、一人でもB評価=A⁻、二人以上がB評価=B、と表記。